



koseikai

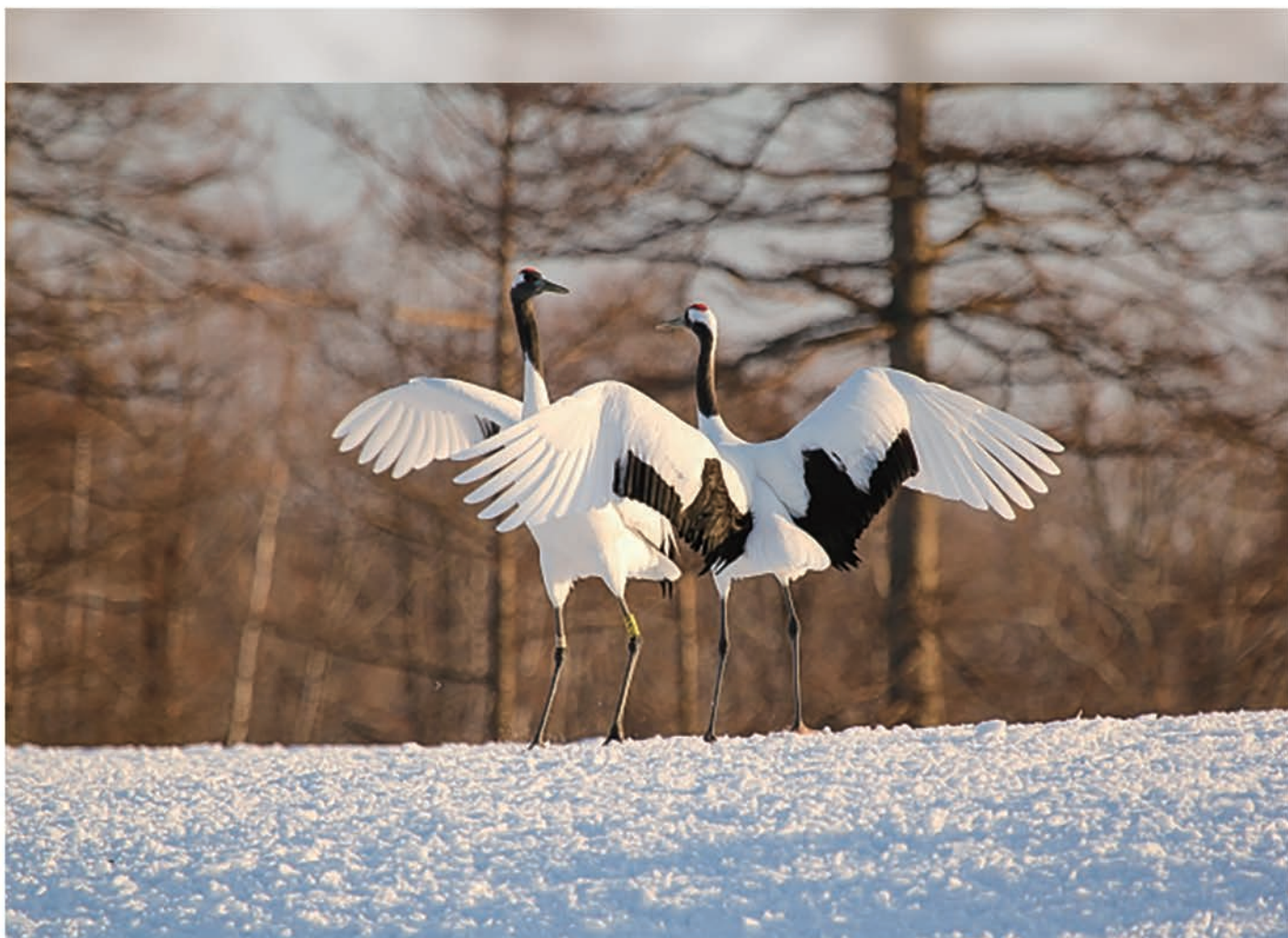
SHIGI

編集発行人／医療法人厚生会 奈良厚生会病院

〒639-1039 奈良県大和郡山市椎木町769-3 TEL.0743-56-5678

奈良厚生会病院ウェブサイト URL <https://www.nara-koseikai.or.jp/hp/>

令和8年1月



◆ 医療法人厚生会 経営理念

持続的な安定経営と発展に努め、地域の医療と介護に貢献します。

◆ 奈良厚生会病院 方針

- 1、安全で良質な医療と介護を提供します。
- 2、清潔な療養環境を提供します。

◆ 行動指針

- 1、患者さんの人格を尊重し権利を守ります。
- 2、医療従事者としての自覚と厚生会職員であることに誇りを持ちます。
- 3、相互の信頼と協調、気配りと思いやりのある態度で職務を遂行します。
- 4、自制と責任感を持ち、規律と厳しさのある職場を目指します。
- 5、常に自己研鑽に努めます。

◆ 奈良厚生会病院 患者の権利章典

私たちは、科学的で安全性の高い医療と福祉を、患者と医療従事者の『共同の営み』として継続・発展させていくために『患者の権利章典』を定めます。

◆ 患者の権利と責務

- | | |
|----------------------------------|--|
| 1、良質な医療・看護・介護を公平に受ける権利 | 5、患者自身の健康に関する情報を提供する責務 |
| 2、人格を尊重され、相互協力関係のもとでサービスを受ける権利 | 6、医療・介護上、理解できないことについて質問する責務 |
| 3、診療に関して十分な説明、情報を受け、自分の意志で選択する権利 | 7、他の患者の治療や介護及び病院職員の医療・介護提供に支障を与えないよう配慮する責務 |
| 4、プライバシーを保護される権利 | |

新年のご挨拶

医療法人厚生会 理事長
奈良厚生会病院 院長

三笠 桂一



明けましておめでとうございます。本年もよろしく願います。さて、僕が30歳前半のころ、週一回奈良厚生会病院の診療のお手伝いに来ていたことがあります。その日の午後、今でもある外来休憩室で、初代理事長を尊敬されていた当時の看護部長の杉田さんから、「先生、将来の奈良厚生会病院のこと頼みますね。喜田君はあんなやけどよう頑張ってる」と言われ笑って聞いていました。そして、昨年の5月のとある日に、そんなことを思い出しながら奈良の東向商店街を歩いていると後ろから肩をたたく人がいました。振り返るとその喜田君が笑っていました。

あれから40年、偶然なのか必然なのか僕はここにいます。僕がこの病院に赴任して今年で8年目を迎えます。この間、病院のあり方についていろいろ悩み、考え、相談し、改革と改善を重ねてきました。

まずは、「病院運営会議」を新たに設置し、病院の方針を明確にし、ローカルルールを無くし、病院の向かう方向性を職員のみなさんと共有し、周知徹底できるようにしました。そして、「病院の理念」をわかりやすく新たに作成し、経営理念を『持続した安定経営と発展』とし、その実現に向けて診療体制や患者受け入れ体制の見直しや整備を行い、多様な患者さんが入院できるようにしました。また、病院の方針として『安全で良質な医療と介護』『清潔な療養環境の提供』を掲げ、医療安全と院内感染対策の充実をはかりました。

次に、喜田事務局長という相談しながら「耐震改修工事」を思い切って実施し、現在の病院の形となりました。予算の関係上100%満足できるものではありませんが、少なくとも職場環境と療養環境の改善はできたと確信

しています。また、新型コロナウイルス感染症をはじめ各種感染症に負けない病院造りを目指して設置した陰圧病床と感染症外来、そしておむつシューターは、感染予防とその拡大防止に威力を発揮しています。そして、昨年はB棟の改修工事が終了し、今年はA棟2階の緊急時の空調設備の導入を行い、一連の工事がやっと完了し、病院の方針として掲げた『安全で良質な医療と介護』『清潔な療養環境の提供』が実現します。

一方、「電子カルテ」を導入し、デジタル化を進めましたが、まだまだ問題はつきないようで申し訳なく思っています。しかし、デジタル化は今後も進めていかなければなりません。さらに、介護医療院には「モデル病棟」を設置し、理想的な介護医療院とは何かを模索しながら整備中です。また、大学と協力しながら「新たな人材確保」も行い、今後も継続していきま

設を巡り、従来の急性期病院からの転院はもとより、若草園をはじめとする周辺の施設からの入院要望に迅速に対応、さらに、今後増加する独居の高齢者が気軽に入院でき、早期に自宅に戻る、あるいは、自宅に帰れなければ次のステップの選択肢を提案し、本人や家族とともに相談し、多様なニーズに対応できるようにしました。



こうして今までに行ってきた改善・改革のための努力は、徐々に実を結び、稼働率は改善し、経営理念に掲げた『持続した安定経営と発展』は実現しつつあります。そして、昨年実施した患者様ご家族様への医療病棟の満足度調査では95%という高い評価を

頂き大変うれしく思っています。

医療を巡る環境はますます厳しくなりますが、生き残りをかけ、今後もこれらの活動をさらに強化し、県内での信頼を勝ち取っていく所存です。昨年は、近畿厚生局の適時調査や医療監視があり、病院が適正に運営され、改善されていることが実証されました。そして、今年は「病院機能評価」があります。病院改革が自己満足にならないように、第三者機関の評価・指導を受け、職員の皆様にご協力を頂きながら、病院をなお一層改善し、さらにその内容は介護医療院にまで広げていきたいと思っています。

奈良厚生会病院は長い、長い滑走路を走りぬけ、やっと離陸しました。この飛行機がどこを目指すのか、みなさんと共に考え、力を合わせて、時代の流れに取り残されることなく、進化・発展を続けられるように頑張っていきたいと思っています。さあ、今頃、故杉田看護部長はどう思っているのかその感想を聞いてみたい気がします。本年もどうぞよろしく願います。

第56回看護学術集会に

参加して

B棟1階

看護師 正田 明子

令和7年9月12日～14日に開催された第56回看護学術集会に参加しました。



会場は名古屋市のポートメッセ名古屋で全国から多くの看護師が集まり、看護の未来について活発な議論が交わされました。今回の学会では『最適な看護をマネジメン

トする』『「良い看護」を「どこでも」「ずっと」をテーマに様々な研究成果や実践報告が多数発表されました。

まず、印象的だったのは『女性のメンタルヘルスと睡眠』という日本睡眠学会理事長の内村直尚講師の講演で、メンタルヘルスと睡眠には深い関係があり、適切な睡眠を確保する事が心身の健康維持には欠かせない、睡眠不足はストレスの増加、肥満、生活習慣病、心血管疾患、うつ病、認知症、死亡リスクを高め、特に40代以降の女性は仕事、育児、家事、更年期の影響を受けやすく規則正しい生活習慣を身につけることが重要であるとの事でした。体内リズムを整え、睡眠休養感を高め、ストレス耐性を向上させ、感情をコントロールさせることが、感情労働である我々の看護、介護という職業のバーンアウトを避けるために非常に重要だと感じました。

次に印象的だったのが、全日本空輸株式会社 人事部 ANA人材大学マネージャーの石島好子講師の教育講演で『チームを動かす客室乗務員のチーム作り』で、客室乗務員は飛行機に乗務の際、いつ

も同じメンバーとは限らず、当日初めて顔を合わせるメンバーと働くことも少なくないそうです。そんな環境下でも安全で質の高いサービスや品質の提供を求められる中で大切にしているのが環境作りであり、共通の軸や1人1人に求められている基準を深く共有しているとの事でした。また、各自の最大限のパフォーマンスを発揮できる環境づくりにはチームワークがとても重要であり、緊急時、各自いつでもリーダーとして判断し動く責任があることも意識しているといった内容でした。

我々、医療者の現場においてもチームワークはとても重要で各自のパフォーマンスを最大限発揮するためには各自の得意を知り、その部分を発揮できる環境を整える事、また、各自が医療者として責任感を持ち、仕事に向き合うことが大切だと感じました。

学会を通じて看護の専門性を高めるだけでなく、他施設との連携の可能性や日々の業務へのヒントを得る貴重な機会となりました。この学びを現場で活かし、より質の高い看護・介護の提供を目指していきたいと思っています。

令和7年度

運動会開催

A棟3階 介護福祉士

課長 辻本 愛

令和7年10月29日 約5年ぶりに介護医療院・医療棟全体の運動会をA棟3階ホールに行いました。

各病棟から集まっていただき、利用者様20名が参加してくれました。レクリエーション委員長より開会の挨拶があり運動会が開催されました。



プログラム1番・バトンリレーを行いました。A棟・B棟とチーム分けを行い、横一列に並んでもらいバトンを隣の人に送りどつちが先にゴールにバトンが辿り着くか!?を

競ってもらいました。笛の合図があるとすぐに隣の人にバトンを送っていました。手がなかなか動かせない方等には職員が補助に入り一緒にバトンを送りました。

プログラム2番・職員によるパン食い競争を行いました。利用者様には両脇に並んでもらい応援してもらいました。声を出したり、拍手をいっばいしてくれていました。海外の職員の人達に日本の文化に触れてもらう為参加してもらいました。初めての行事であり、また手が使えないのでなかなかパンが取れなくて苦戦している職員もいましたが終始笑顔で頑張ってくれていました。パンが取れ、ゴールをした時の嬉しそうな顔が見られました。



プログラム3番・玉入れを行いました。こちらもA棟B棟に分かれ、円になり、真ん中なかごを持った職員と床に

置いたかごを目掛けてボールを投げ入れてもらいました。ボールを持ったらすぐに投げたくなる様でフライングをしてしまった利用者様も多数いました。1回戦はA棟チームの勝利、2回戦はB棟チームの勝利、3回戦は引き分けとなりました。



どのプログラムでも利用者様はやる気が満ちており、いつぱいの笑顔が見られました。参加された利用者様へお土産として水ようかんを持って帰っていただきました(主治医の許可済み)。

利用者様も職員も「楽しかった!」「またやりたい!」等言われており、無事に開催が出来、大盛況で今年度の運動会は幕を閉じました。今後もこの様な病院全体の行事を続けていける様に企画を立て、利用者様・職員全体の笑顔ややる気・コミュニケーション

をもっと増やしていける様にしていきたいと思えます。

参加して下さいました利用者の皆様、ありがとうございます。また次回を楽しみにして下さい。

日本慢性期医療学会に

参加して

看護部 副看護部長

霧下由美子

A棟2階

看護師 主任

仲西やよい

B棟3階

看護師

胡内 愛子

このたび、日本慢性期医療学会においてポスター発表の機会を賜りました。発表当日は、座長の先生がまるでプロのアナウンサーのように円滑かつ温かみのある進行をしてくださり、会場全体が和やかな雰囲気包まれる中、緊張を和らげて発表に臨むことができました。心より感謝申し上げます。

会場には多数のポスター演題が掲示されており、日々の実践の中で、より良い看護・介護を目指して各施設が創意

工夫を重ねている様子を目の当たりにし、大変刺激を受けました。どの発表も非常に示唆に富んでおり、学びの多い時間となりました。

今回の発表に際しましては、多くの方々にご助力を賜りました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございます。



雨にも負けず!

第23回 昭和地区

ふれあいまつり

総務課

主任

岸本 憲治

10月26日(日)、昭和地区公民館にて「第23回昭和地区ふれあいまつり」が開催されました。当日はあいにくの雨模様でしたが、近隣住民の皆さまが次々と訪れ、笑顔と活気に包まれた一日となりました。



今年も恒例のパトカーや消防車の展示・撮影会が行われ、子どもたちの目は輝き、記念写真を撮る姿があちこちで見られました。金魚すくいや模擬店も立ち並び、雨空を忘れ

るほどのにぎわいを見せました。

当院からは4名の職員が参加し、血圧・血糖・骨密度の測定を通じた健康相談を実施。さらに感染症予防のパンフレットやマスクを配布し、地域の皆さまの健康づくりをサポートしました。雨天にもかかわらず、朝から多くの方々に足を運んでいただき、

- ◆ 血圧測定…42名
- ◆ 血糖測定…48名
- ◆ 骨密度測定…49名

合計139名の方にご参加いただきました。足元の悪い中お立ち寄りいただいた皆様に感謝申し上げます。

